

## 人と同じ

三年 勝亦優衣

まず正確な事を言うと、私の家ではペットを飼っていません。約一年、犬のトイプードルを預かりました。

私が犬を飼いたいなと思っていた時に、父の会社の方が県外に一年弱赴任が決まり、飼っているペットは連れていけないという事で私の家で預かる事になりました。

トイプードルの名前はチョコ。チョコが家に来る日は、嬉しくて部活が終わり、走って帰りました。チョコとの初対面で、私は驚きました。チョコにはトイプードル特有のクルクルした毛がありませんでした。とにかく驚きました。

従姉妹が動物病院の看護師をしているので、チョコの写真を送り、どうすれば良いのか聞きました。トイプードルの特徴を教えてください、すぐに動物病院へ連れて行く様に言われました。

次の日、母がチョコを動物病院へ連れて行き、大量の飲み薬を処方されました。

「薬を飲むなんて、人間みたい。」  
と思いましたが、その通り、動物も立派な生き物なのです。

愛犬家が増えすぎてしまった犬達を放置するニュースを見ることがあります。私の家の近所でも五・六年前に同じような事があり、ニュースになりました。

この夏休み、富士市の中学生の女の子が母親と一緒に、子猫の譲渡会を開いたそうです。子猫は保健所から引き取ったそうです。保健所から引き取った子猫という事は、もし引き取られなかったらと考えると、悲しいの一言です。

動物愛護の言葉だけ見ると、動物を可愛がると思ってしまうがちですが、そうではないと思います。放置された動物を見ると、人間を見て怯える、威嚇する行動に出ます。人間も同じ様に、嫌な事をされたら、同じ事にならない様に避けたり、ご機嫌を伺ったりします。人間も動物も同じなのです。

その後、チョコは毎日薬を飲み、体の乾燥も減り、少しずつ毛が生えてきました。母は、どうしたら薬を飲むか工夫をし、根気強くチョコの病気と向き合いました。チョコにはかわいいそうですが生活を今までと変えました。特に食生活の改善をしていきました。

今ではチョコには、フサフサの毛が生え、元気に走りまわっています。動物愛護の形は様々だと思います。先に書いた、中学生の女の子の言葉を借りると、

「ネコたちも人間と同じ生き物なので、愛情をたくさん注いでくれるのが前提。」

この言葉、当たり前なのに、当たり前事が出来ていない人間のエゴだと思いました。

夏休みが終わると、チョコとの別れが待っています。沢山チョコと遊びたいです。